

子どもの主体性を育てる授業づくり～教師の発話・学びの場づくりを基盤として～

栗山町立栗山小学校 学級数 17 (校長 土谷 直樹)

□ 実践の概要

本校は、子どもたちに「自分の意志で行動を決められる人」に育ててほしいという願いから、教師の発話と学びの場づくりを基盤とし、主体的な学びを形成する要素として「選択」「自己調整」と「振り返り」をセットで扱うことに焦点を当て、「子どもが主語」の授業改善を図っている。

1 実践の目的

子どもたちの主体性を育むために、自ら課題を見つけ、考え、判断し、行動できる子どもを育成するとともに、他者との関わりの中で自己肯定感を高め、学ぶ意欲を引き出す。

2 実践内容

(1) 実施計画

研究の視点を、①「選択場面の工夫」、②「効果的なICT活用」とし、低学年、中学年、高学年、特別支援教育の4つのブロックを構成し、研究を推進する。全員が授業公開又はレポート作成を行うことで、個別最適・協働的な学びを深める。日常的にクラウドを活用し、一人一人の実践を充実させる。

(2) 取組の具体

各教科等で「選択場面」を設け、学習者の意思を尊重し、自己決定の経験を積ませるとともに、「自己調整に特化した振り返り」を導入し、次時への意欲の向上を図った。また、クラウドサービス（オクリンプラス、Googleフォーム、スプレッドシートなど）を使うことにより、全員の学習状況の把握、他者参照（結果だけでなく過程も）や同時編集を可能にするなど、ICTを資質・能力育成の基盤と捉え、全員参加の保障と振り返りの質の向上につなげた。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

選択をした理由を言葉で表現させたり、授業の中で自己調整の場を保障させたりすることが効果的であることが分かり、前期後半からすぐに改善した。また、授業観察を通じた発話分析に加え、ICTを活用した多様な振り返り方法（オクリンプラス、Googleフォーム、スプレッドシートなど）のメリット・デメリットを検討し、後期から、振り返りにおいて他者参照を可能にしたり、他者のデータを消去してしまうトラブルを防ぐ工夫をしたりした。

(4) 改善後の取組

学習状況や振り返りの記述を分析し、学び方の育成方法を充実させる。次年度は「協働的な学び」を研究テーマとし、多様性の包摂やクラウド環境での他者とのつながりを活かした主体的な学びの実装を目指す。



【自己調整場面の保障のプロセス】

3 実践のポイント

- ・「不易と流行の統合」…時代を超えて変わらない自律心や豊かな人間性の育成（不易）に、ICT・GIGAスクール構想による学びの変革（流行）を取り入れること
- ・「教師の役割の多様化」…教師を「指導者」「教授者」「伴走者」「ファシリテーター」「学習者」と捉え、バランスとタイミングを意識して役割を果たすこと
- ・「主体性の構造化」…「選択」「自己調整」「振り返り」をセットで行うことで、エージェンシー（自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲）を育み、個人及び他者のウェルビーイングにつなげること

【参考文献】

大村龍太郎（2023）『クラウド環境の本質を活かす学級・授業づくり』明治図書出版

堀公俊（2023）「学校とファシリテーション」『教育の中の多様性とファシリテーション』学事出版



【教師の役割・在り方】

「自律した学習者の育成」を目指した1人1台端末を活用した実践

恵庭市立柏小学校 学級数17 (校長 松田 宏明)

□ 実践の概要

本校は、令和6年度から「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」の配置校として、児童の探究のプロセスの様々な場面において、目的に応じて各種ソフト等を選択、活用して問題解決に向かうことができるよう、ICTの効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を推進している。

1 実践の目的

1人1台端末の活用により個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、各教科等において主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、「自律した学習者」を育成する。

2 実践内容

(1) 実施計画 (令和7年度)

月	実施計画	内容
4	全体理論研修①②	目指す授業像の共有/今年度の校内研究について
5	全体理論研修③/全学級授業公開	ICTの効果的な活用についての理論研修及び実技研修
6	全体理論研修④⑤/全学級授業公開	ICTと対話的な学びの親和性について
7	全体理論研修⑥⑦/全学級授業公開	ICTの効果的な活用を図る単元デザインについて
8	グループ研修①	目指す子ども像に向けたグループごとの実践、検証
9	グループ研修②/指導案検討、全学級授業公開+特設授業公開、事後研修	1人1実践に向けたグループ研修/各種ソフト活用実技研修/社会科における授業づくり(特設授業)
10	グループ研修③/第4~6学年授業公開	指導過程の明確化/思考を可視化するICTの効果的な活用
12	グループ研修④/指導案検討、全学級授業公開+特設授業公開、事後研修	振り返りにおけるICTの効果的な活用/対話的な学びを振り返る授業づくり/国語科における授業づくり(特設授業)
2	研修のまとめ/第1~5学年授業公開	研修の振り返りと次年度に向けて

(2) 取組の具体

実施計画に基づき、次のとおり、実践研究を行った。

- ① 児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面での1人1台端末の活用
 - ア ICTの効果的な活用についての理論研修
 - イ 活用する各種ソフトに係る実技研修
- ② 児童同士や児童と教職員がやりとりする場面での1人1台端末の活用
 - ア 思考を可視化するICTの効果的な活用を目指した授業づくり
 - イ 必要な時に、必要な相手と協働できる授業づくり
- ③ 児童が学習を自分ごととして捉え、学習活動を振り返る場面の設定
 - ア スプレッドシートを活用した個々の学びを蓄積する振り返り
 - イ 学びの見通しをもち、自分の学びについて振り返ることを重視した、自己調整力を育む授業づくり



【児童同士でやりとりする対話場面】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ・成果…児童アンケートにおいて、低学年では「ICT機器に自分の考えをまとめ記録している」の肯定的回答が、6月から11月で20%増えた。全体では「主体性・協働性に関する項目」が高い。
- ・課題…活用するアプリや活用頻度に教員間でばらつきがある。
- ・解決策…他者参照、アウトプット、学びの記録化等、目的に応じたアプリの効果的な活用の推進。

(4) 改善後の取組

- ・より効果的に活用する場面を工夫し、資質・能力を育むためのツールとして端末やノートといった学習道具を子ども自身が自ら選択して学びを深めることができる授業づくりを推進する。
- ・情報の収集、整理・比較、発信・伝達等の発達の段階を踏まえた育成指標を作成する。
- ・端末の効果的な活用を見据えた単元及び年間指導計画の改善・充実を図る。

3 実践のポイント

- ・新しいかたちの学びの授業力向上推進委員による「端末の積極的活用から効果的活用へ」について組織的に取組を進めたこと
- ・各教科等の特性に応じたアプリを活用したことや活用アプリの一覧を作成したこと

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた具体的実践 ～自律・共生の力を伸ばすための実践的研究～ 遠別町立遠別小学校 学級数9 (校長 加納 克則)

□ 実践の概要

本校は、令和6年度から令和8年度まで、児童が自立した学習者として必要な資質・能力を明確にし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して、児童一人一人が自己調整しながら学習を進めることができる授業改善を推進している。

1 実践目的

児童一人一人に対し、ICTを効果的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することにより、児童自らが学習を最適化できるように自己調整する力を伸ばし、互いに関わり合うことで、学習をより深化させる。

2 実践内容

(1) 実施計画

- ① 「遠別小学校 自律・共生・主体的な学びの行動指標」の設定及び児童アンケートによる実態把握と改善に向けた手立ての具体化と実践
- ② すべての教科で、ロイロノートやキャンバ等のICTと思考ツールを活用した授業実践
- ③ 教職員一人一人の専門性を高め、学校全体として授業力の向上を図った校内研修

(2) 取組の具体

- ① 自立した学習者として必要な資質・能力の育成に向けた取組
 - ・ 4月：「遠別小学校 自律・共生・主体的な学びの行動指標」の設定、育てたい9つの力（目標）の設定
 - ・ 5月：児童アンケートの結果と学級担任による実態認識の統合による課題の焦点化
 - ・ 12月：指導効果の検証のための児童アンケートの再実施、行動指標に対応した指導方法の確立と授業改善の推進
- ② 日常的な授業におけるICTや思考ツールの活用の取組
 - ・ 思考の整理と可視化を効果的に行える思考ツールを活用した授業改善
 - ・ ロイロノートの活用等による児童自らの学習状況の把握や教師からのフィードバックの最適化など、個別最適な学習の実現
 - ・ 効果的なICTの活用による児童の表現力や協働力の育成
- ③ 校内研修推進のための工夫改善
 - ・ 教職員の個別最適な学び：教職員で設定した課題の解決に向けた研究と実践
 - ・ 教職員の協働的な学び：ブラッシュアップ研修でICTを活用したデータで各研究のまとめを作成し、個人研究の内容を共有

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ① 行動指標を作成したことにより、育てたい資質・能力、目標となる児童の姿を教職員間で共有することができた。また、児童自身が自己変容に気付き、自ら学び続ける意志をもった児童の育成につながった。
- ② 思考ツールの活用により、情報が可視化されたことで、自ら学び、共に学ぶ児童の姿が見られるようになった。
- ③ 校内研修の推進については、研修担当教職員が研修内容を把握し、適切なフィードバックや支援を行うなど、校内研修を一層推進していく必要がある。

(4) 改善後の取組

- ・ ブラッシュアップ研修等において、教職員相互の交流を通して得た新たな視点を踏まえた個人研究を通して、授業実践を図る。
- ・ アンケート以外の多角的な視点からの実態の見取りを行う方法について検討する。

3 実践のポイント

- ・ 目標の明確化と児童を中心とした授業改善に向けて行動指標を作成したこと
- ・ 児童の思考力・判断力・表現力の育成につなげるICTや思考ツールの活用による指導を工夫すること

自律・共生・主体的な学びの行動指標								
自分で考え、判断し、行動することが出来る子どもたち(自律)			自分の考えを伝え合い、よりよい考えを導き出す子どもたち(共生)			学習したことを活用し、教科等横断的な解決能力を高めようとする子どもたち(主体的な学び)		
目標寸変	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。
ステップ3(高学年)	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。
ステップ2(中学年)	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。
ステップ1(低学年)	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。	児童が自ら考え、判断し、行動することが出来るようになる。

【自律・共生・主体的な学びの行動指標】

	昨年度からの変化				
	1年	2年	3年	4年	5年
★自己調整の力					
自分自身を思い、自分自身と向き合うことができる。(自己肯定感)	+13%	+7%	+13%	+10%	+4%
目標達成のために、仲間や先生に助けを求めることができる。(協働性)	+7%	+4%	+2%	-4%	-1%
主体的・自発的に学習に取り組むことができる。(行動力)	+12%	+9%	+2%	-0%	-2%
★共同に学ぶ力					
自分の考えを、仲間や先生に伝えることができる。(傾聴力)	+8%	+12%	+10%	+4%	-5%
自分の考えを、仲間や先生に伝えることができる。(傾聴力)	+1%	-5%	+3%	+1%	+2%
自分の考えを、仲間や先生に伝えることができる。(傾聴力)	+8%	+11%	+1%	-0%	+6%
★主体的に学習に取り組む力					
自分の考えを、仲間や先生に伝えることができる。(傾聴力)	+8%	+12%	+2%	-2%	+1%
自分の考えを、仲間や先生に伝えることができる。(傾聴力)	+7%	+10%	+2%	+3%	+0%
自分の考えを、仲間や先生に伝えることができる。(傾聴力)	+8%	+10%	+1%	-0%	+2%

【R7年度 児童アンケート結果】

